





## 教育委員会

(3) **六 年 生 送 る 会**  
 神谷少年剣友会  
 仲里文吉同 (文化センター・主査)  
 鈴木昌紀  
**六 年 生 送 る 会**  
 29日 神谷少年剣友会  
 神谷少年剣友会(中野浩一)  
 会員の六年生を送る会は、二十  
 九年前八時から平六小体育館で  
 繰り開かれていた。  
 会員のあと紅白試合、個人戦  
 に汗流して六年生を激  
 見送る。

(第三種郵便物認可)

主査

主







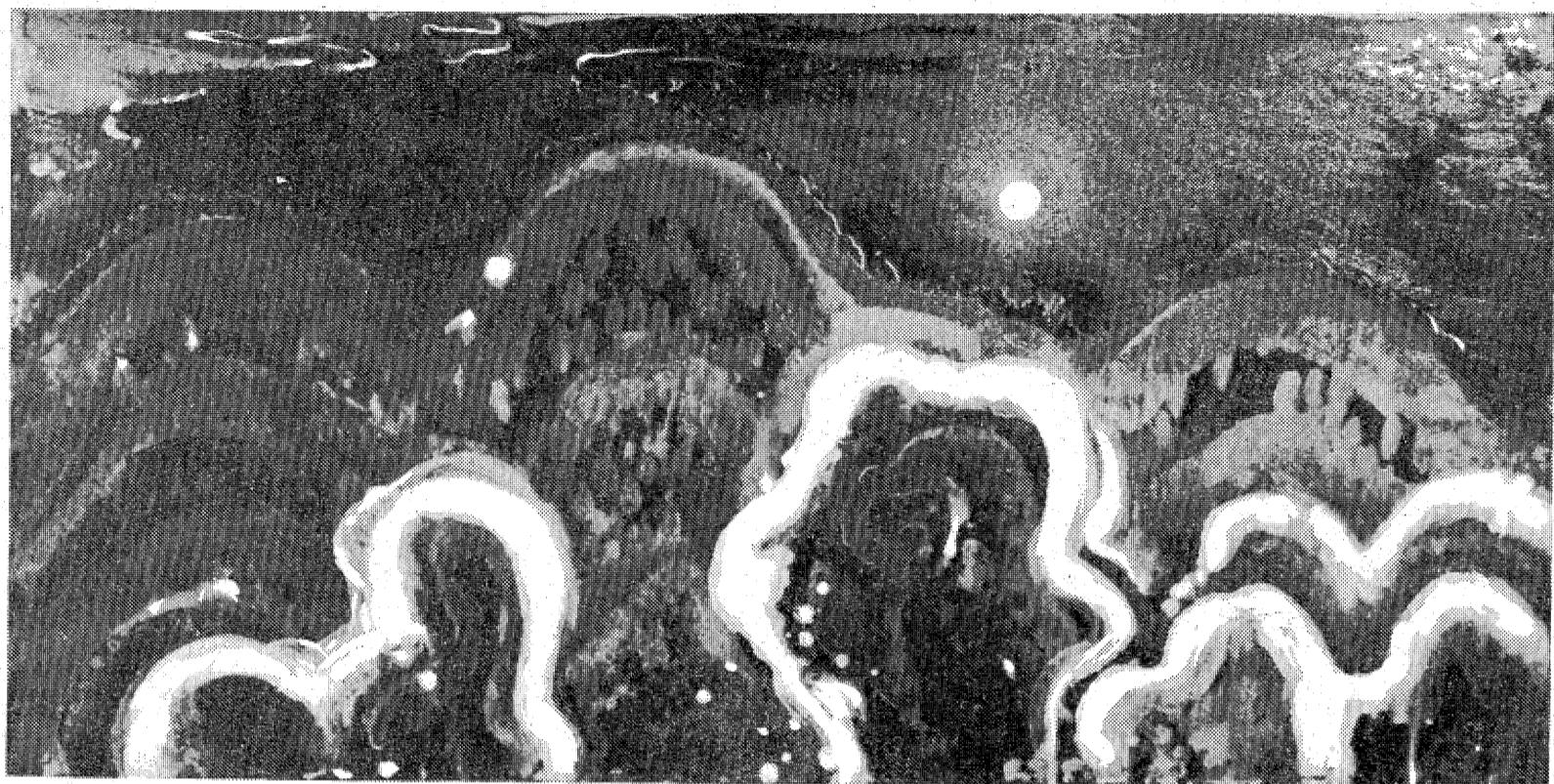
56年度特別企画

# 異端の天才画家

# 中村正義

# その人と芸術！

12



國影(50号卷)

# 破壊と建設!

# 正義芸術と私の邂逅 (K)

# 解説 小松三郎

私は必死でした。私はそこに革新的な画家のものすごいことをやりましたと仰らされたのです。これ、そ日本の方にピカソです。その破壊精神は、モダニズムの主張で、精神となり、卓抜となり、旺盛とも喻えようがありません。皮一枚に伝統を残した破壊ぶりは、最早既成概念の跡形もなく、発展するその絵画（画面より、発するエネルギー）は私の精神状態を高めさせて、私はセイゼイと瞬が潤ぎます。テーブルのコップと手を出しました。すると画伯は禮面に笑みを浮べてリボン・シートロンをゆっくりと、一気にコクコクと音を立てて飲んだのです。

「それは見事に設営されています。私は無論どうなりました。するども、雄渾な山々は、一山又一山と續く端にかかる太陽に向かって迫づゆくまま、壮大なドラマでした。」  
「こ、これは大変なものだ！」

パンのために描いた絵ばかりが大変身を入れているので、画伯はいささかムツとした表情になりました。「小松さん、それじゃ対照的な品をお見せしますよ」画伯は奥の間から「風景」と題する横長の絵を出して来ました。それは、見る見る、乱暴な絵のように見えたのです。  
「前の絵と見比べてどうですか？」  
「これはパン画ではありませんよ」  
なのほど、画伯にそう言われるのも珍しくない。前回の「陽」と比べてもなく、前回の「陽」と比べるとまるで様相が一変しています。細々と見てゆくと、なんといふ

**仕出し**

◆定食も(¥1,000より)出前いたします

御食事処 いおり

山々にかこまれた  
鮫川沿いの静かな湯治の宿

100年の歴史を誇る神経痛の湯

当館自慢の季節料理 ..... アユ料理  
 ジンギスカン・野武士焼・鯉・ウナギ料理  
 山菜料理 団体様なら名様から植田・泉・湯本各駅までマイ  
 ワープスで送迎いたします。

**鉱泉 中根の湯**

いわき市遠野町大平 電0246-89-2186

監督……………ジョー・ダムト  
……………スーザン・スコット ………………ローラ・ゲムザー  
……………モニカ・ザンチ ………………ガブリエル・ティンティ

ある時は残酷にある時は官能的に

毎夜毎夜——  
今夜も私を狂わせて！

獵奇  
変態地獄

成人映画

---

監督……………エリアス・マイラー  
●暴行、私刑、変態、のぞき  
ＳＥＸ行為の数々を全篇に満載した  
異色ハード・ポルノ!!

A black and white movie poster for 'Dynamite Poler'. The title is at the top in large, bold, stylized letters. Below it is a large photograph of a woman in a bikini. At the bottom, there is promotional text and a date.

## 兼題「風花」「寒灯」

看護婦の声細り病み寒灯

風花や父母なき里に不平日

前題に馴れ大寒を観りおり 初一 である。佳句。

窓出しの寒に風花触れて消ゆ

寒灯に鏡をもらして穂を続ぐ

駆在の灯が寒灯となつて更け

鉛車に横まれた牛は、首の高さにある怒

片田舎の町の夜は、医院と駆在と消防車

風花や宙を睨んで貨車の牛

寒灯下人待つ靴を踏み鳴らし

書き初めや己を誇す文字連ね

春潮 初一

縫ふも雪くも母子寒灯相け合ひて

別れ来し素顔寒灯より面し

筆洗う黒波光る寒の水

火を焚いて仕事舞いの闇焦がす

風花や雪を睨む海の絆

波音がつな入江の冬灯

煙波で纏つて欄名冬

火を焚いて仕事舞いの闇焦がす

縫ふも雪くも母子寒灯相け合ひて

別れ来し素顔寒灯より面し

書かばがばと仕事始めの作業服

火を焚いて仕事舞いの闇焦がす

縫ふも雪くも母子寒灯相け合ひて

別れ来し素顔寒灯より面し

湯品腐ら老のくらし定刻に

火を焚いて仕事舞いの闇焦がす

縫ふも雪くも母子寒灯相け合ひて

別れ来し素顔寒灯より面し

火を焚いて仕事舞いの闇焦がす

## 木奴美例会

席題「大寒」「当季雑詠」

太寒の声を喰らつて魚蠅  
太寒の鶏割く指の皿の乾く  
銀行の麻糸に北風かわす  
太寒の駅廿の喰いのそばぬる  
太寒火十箇い仕語吐く  
潮端や音な大寒押しこま  
太寒や雪端を断る大口春潮 初一  
石梁 銀汀 善知庵

志の子 松子 静雪 善知庵

栄子(松) 静雪 善知庵

この密取り締まりは明治

大正から昭和までつづいたため

影もうすぐれてきたが、戦争にな

りはじめた。しかし税務署は警

察も手がまわりかねたとみえ

て、そう摘発もできなかつたよ

う。

△参考写真は明治四十四

年、密取り締まりのため古

川税務署(宮城県)に勢ぞろ

いして摘発にのり出すところ

だ。

△参考写真は明治四十四

年、密取り締まりのため古

川税務署(宮城県)に勢ぞろ







